

埼玉県租税教育推進協議会長賞

税について思うこと

熊谷市立大幡中学校 二年 尾林 慶典

税の歴史は古く、弥生時代から始まった。最も有名なのは歴史の教科で習った、奈良時代の租・庸・調である。それから現代に至るまで、あらゆる改善と考案を重ね、今では僕たちが生活していくうえで、必要不可欠な制度となっている。

僕は今まで税金について考えたことが全くなかった。僕が知っている税金で、しかも払っているのは、消費税くらいなものだ。しかも、そのお金は両親が一生懸命働いたものである。その程度の知識しかなかった。そこで、この作文を書くために図書館へ行き「税」について調べて見た。そして種類の多さに驚いた。住民税・消費税・飲食税など約五十種類もあったからだ。しかし、それらのほとんどが僕たちのために様々な形に変えて戻ってきていた。整備された道路・施設公共サービス、僕たちを守ってくれる警察・消防など普段当たり前に感じている多くのことが税金で負担されていた。その中で特に印象に残ったのは一番身近な教科書だ。学校で勉強に使う教科書、何十台ものパソコン、体育用具などの備品、校内の施設に必要な経費、授業料等当たり前のようになっているものの一つ一つに税金が使われていたのだ。僕が良く利用する公立図書館も、多くの種類の本があり非常に便利で快適である。僕たちは大切な税金が無駄にならないように今の環境に感謝しながら、しっかりと学校生活を送るべきだと思った。

これからどんどん高齢化社会になっていく。同時に問題も生じてきている。多くのお年寄りは年金で生活しているのに、少子化の影響で、お年寄りを支える働き手が減っているのだ。二〇二〇年にはなんと、お年寄り一人を働き手二人で支えることになるそうだ。

僕たちが大人になる頃には、お年寄りの増加で、医療の負担や年金を支払うための社会保障関係費が増加し、今よりもっと多額の税金を納めなければならないようになっていだろう。大変なことだが、税金の大切さを実感した今では、税金なしでは国は成り立っていかないと考えている。

税金は国民全員で協力し、国民全員の生活を支えるためにあるのだ。このことを忘れないでおこう。

今はまだ僕たちは支えられている立場にある。そして、僕が成人するまで、まだまだ税金のお世話になり続けるだろう。税を納めてくれる多くの人たちのお陰で、僕たちは学校に通え、成長させてもらっている。しかし将来、大人になって納税者となった時は、今度は僕たちの世代が、一生懸命働いて税金を納め、お返しをして支えていく番だと思っている。